

摂食・嚥下障害看護認定看護師

「摂食」とは、食べること・食事をとること全般を指し、「嚥下」は飲み込む事を言います。摂食・嚥下障害とは、嚥下運動・意識障害・食欲低下・心理的障害などで、食べるのが困難になることです。「口から食べる」ということは、単に身体機能の維持だけでなく、精神面や社会生活においても重要な意味を持ち、人の生活を豊かにします。口から食べることができなくなってしまった時のQOLの低下は計り知れません。摂食・嚥下障害看護認定看護師は1人でも多くの「食べたい！」気持ちを支えられるように関わらせていただきます。

【現在の活動】

- ・嚥下回診(耳鼻科医師・管理栄養士)
- ・院内摂食嚥下勉強会(言語聴覚士協働)
- ・病棟内摂食嚥下勉強会
- ・摂食嚥下ケア推進ナースの育成
- ・摂食機能療法の推進

院内嚥下勉強会



嚥下回診



メンバー紹介

青山 真弓
(2010年取得)



患者さんに摂食嚥下ケアをさせて頂く中で、食事が食べられるようになり笑顔で退院される姿を見る機会があります。摂食嚥下障害に対し関わることは、患者さんへ希望を贈るケアであり摂食嚥下障害看護の果たすべき使命の大きさを実感します。「全ての患者さんに口から食べられるチャンス！」をモットーに、多くの患者さんに関わらせて頂きます。

高田 友香
(2015年取得)



摂食・嚥下障害のリスクのある患者さんにどのような看護を行えば 安全に食べる事ができるのか考え、この分野について専門性を高めたいと思いました。患者さんのQOLを向上させるために、患者さんにとって「口から食べる事」とはということなのかを考え、患者さんに関わらせて頂きたいと思います。

三橋 力輝斗
(2019年取得)



祖父の摂食嚥下障害を機に認定看護師を目指しました。摂食嚥下障害の症状は患者さんにより千差万別で、参考書通りの方法では思うように効果が得られないこともあります。一人一人異なる摂食嚥下障害患者さんの「食べたい」という思いを汲み取り、もう一度「おいしい！」と笑顔になれるようにサポートさせて頂きたいと思います。

尾崎 万記
(2020年取得)



救命救急センターで、疾患に伴う摂食嚥下障害や気管挿管などの医療機器の影響によって嚥下障害を有する患者と関わる中で、急性期において回復期を見越した適切な摂食嚥下ケアが早期に行われることの重要性を日々感じています。患者が本来持っている食べる力、“食べたい”という気持ちを最大限に守っていけるよう、急性期から回復期に向かう患者の摂食嚥下機能の維持・向上に努めていきます。